

7月17日(月)

## 世の光となる

聖書朗読 ヨハネ 3:16~21

このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。

マタイ 5:16

こんにち、アジアやアフリカなどでは、(迫害などの難しい状況もありますが)大勢の人々が福音を受け入れて、多くの教会が成長しているそうです。その一方、いわゆる欧米では、多くの教会が(人数的に)縮小してしまい、教会がその勢いを失っている場合が多々あります。なぜでしょうか?パウロは、次のように書いています。「この世の神が不信者の思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光にかかわる福音の光を輝かせないようにしているのです」(II コリント 4:4)。つまり、「この世の神」すなわち、サタンが人々を惑わし、神様の輝きを人々が見ることが出来ないようにしているのです。

ですが、暗闇の中に輝く光を創造された神は、私たちの心にも光をもたらして下さいます。つまり、私たちに希望の光をもたらして下さるイエス様を、私たちが知ることが出来るように導いて下さるのです。(参照、II コリント 4:6)。そして、私たちがイエス様という光を十分に受けると、今度は私たちが、イエス様という光を反射させて、私たちの周囲の人々を照らすことが出来るのです。ですから、イエス様は「あなたがたは、世界の光です」(マタイ 5:14)と言われたのです。

こうして私たちがイエス様の光を輝かせるということは、(いわば)神様がセットして下さったランプ・スタンドの上に、私たちを載せて頂き、ランプとして辺りを照らすという役割を果たすことだとも言えましょう。「また、あかりをつけて、それを柵の下に置く者はありません。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいる人々全部を照らします」(マタイ 5:15)。光が暗の中で輝くように、様々な問題がある世界の中で、イエス様という光が人々の心に希望をもたらすのです。ですから、私たちは、愛をもって真理を語り、イエス様の素晴らしさを、私たちの生き方を通して証してみたいでしょう。

讃美歌 533

祈り 天のお父様、まことの光であられるイエス様を感謝します。イエス様の光によって私たちの心を照らし、私たちを「世界の光」としてお用い下さい。イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

リチャード・アディ  
オレゴン州グレシヤム

## 今日のカ

2023年7月17日~7月23日

翻訳 伊藤若菜

編集 相川忠義

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

7月18日(火)

## 気にかけて下さるイエス様

聖書朗読 ヨハネ 4:1~9

わたしは、あなたがたに言います。求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。だれであっても、求める者は受け、探す者は見つけ出し、たたく者には開かれます。

ルカ 11:9~10

イエス様は、ユダヤからガリラヤへと戻る旅をされていました。その際サマリヤを通られました。サマリヤを通るルートは、最短ルートだったかもしれませんが、一般的なユダヤ人が旅で使うルートではありませんでした。旅の途中、イエス様はお疲れになり、ヤコブの井戸にお座りになりました。そしてサマリヤ人の女性がその井戸にやって来た時、イエス様はその女性に水をお求めになられました。女性は驚いて、「なぜ私に水を求めるのですか？」と、イエス様に問いを投げかけました。この時代、ユダヤ人とサマリヤ人は仲が悪く、ユダヤ人がサマリヤ人に話しかけることはまずあり得なかったからです。ましてや、サマリヤ人の女性に話しかける等ということは、あり得なかったからです。

神様に問いを投げかけたことはありますか？ イエス様は、サマリヤ人の女性が投げかけた問いをしつかりと受け止めて下さいました。こうしてイエス様は、サマリヤ人の女性との会話の機会を作り、「生ける水」について説明されたのです。

私達も、(信仰生活の上で「なぜ?」と思うことがあるならば)神様に対して素直に問いを投げかけることが出来ます。イエス様でさえも、「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか」と、父なる神に対して率直に問いました。

「求めなさい。そうすれば与えられます」と、聖書にはあります。イエス様がサマリヤ人の女性に対し誠実に向き合っただけでなく、私達に対しても誠実に向き合っただけです。イエス様の誠実さは、私達の想像を超えるような誠実さです。ですから、私達が心の中にどんな思いを持とうとも、イエス様にそれを差し出すとき、イエス様は私達の思いをしつかりと受け止めて下さいます。つまり、私達は、イエス様に対して、正直な思いを何でも申し上げることが出来るのです。

讃美歌 312

祈り 親愛なる神様、恐れることなくあなたに私たちの思いをゆだねていくことが出来るよう、お助け下さい。尽きぬ愛を与えて下さることに感謝します。イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ゲイネリー・トーマス  
ニューメキシコ州ポルタレス

7月19日(水)

## 心の糧

聖書朗読 ヨハネ 4:27~38

わたしの肉はまことの食物、わたしの血はまことの飲み物だからです。

ヨハネ 6:55

エジプトで奴隷として苦しめられていたイスラエル人たちが、エジプトを脱出して旅を始めた直後、彼らの食べ物が不足しました。そこで神様は、マナと言う食べ物を彼らに与えました。それは天から降ってくる甘いパンで、砂漠での空腹を満たすために十分でした。こうして神様は、40年に渡る彼らの砂漠での旅の間、彼らを養い続けて下さいましたが、そんな神様に対して、彼らはいつも不満ばかり口にしていました。

聖書では、多くの箇所でお食べ物について触れられています。例えば、旧約聖書の律法を見ますと、どんな食べ物をどのように食べたらよいか定められています。また、マナについても書かれています。そして、私達は物質的な食べ物だけでなく霊的な食べ物も必要である、ということを聖書は教えています。例えば、ヨハネ4章では、イエス様が井戸に来た女性と話されたことが記録されていますが、その直後、弟子たちはイエス様に物質的な食べ物を差し出しました(ヨハネ4:31)。しかし、イエス様は「わたしには、あなたがたの知らない食物があります」(32節)と仰り、続けて「わたしを遣わした方のみこころを行い、そのみわざを成し遂げることが、わたしの食物です」(34節)と仰いました。

ここでイエス様が言われたことは、「イエス様は、父なる神様の御心を行うことにより、イエス様ご自身が霊的に満たされる(イエス様の使命が全うされる)」ということではないでしょうか。そして、同様に、弟子たちも神様の御心を行う時、霊的に満たされるのです。ですから、イエス様は、弟子たちに次のように言われたのです。「目を上げて畑を見なさい。色づいて、刈り入れるばかりになっています。神様は、その御心を行う人を霊的に豊かに満たして下さいます。私達も、神の御国のために、(小さなことであっても)出来ることをしてみませんか。

讃美歌 503

祈り 天のお父様、霊的に満たされない時、あなたへ立ち返ることが出来るようお導き下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ステーシー・オーウェン  
テキサス州ヘンダーソンヴィル

7月20日 (木)

## 生ける水

聖書朗読 ヨハネ 4:1~14

神よ。あなたは私の神。私はあなたを切に求めます。水のない、砂漠の衰え果てた地で、私のたましいは、あなたに渴き、私の身も、あなたを慕って気を失うばかりです。  
詩篇 63:1

喉が渇いて生命の危険を感じたことはありますか？

私は、これまでの人生において、沢山そのような場面がありました。私が住んでいるテキサスはとても暑いため、そのような経験が多いのだと思います。私が記憶するその最初の経験は、祖父母の家で従兄弟達と走り回って遊んでいた時のことだと思います。他にも、サッカーの練習中に、あまりにのどが渇いて生命の危機すら覚えたことがありました。また、私は大人になってから高速道路上で作業をする仕事をしましたが、炎天下での作業中に、やはり大変のどが渇いた経験があります。

スカルにある「ヤコブの井戸」にサマリヤ人の女性が水を汲みに来た時、イエス様はその井戸端に座っておられました。イエス様は、「水をくれませんか」と尋ねることによって、この女性と会話をお始めになりました。そして、彼女に「生ける水（永遠に渇くことのない水）」を彼女に与えました。その「生ける水」とは、イエス様ご自身のことでした。そして、イエス様はこんにちでも、「生ける水」として、私たちの魂の渴きを潤して下さるお方なのです。

私がかつて、あまりにのどが渇いて生命の危機すら覚えた時には、水を飲んで救われました。ホースから直接水を飲んだこともありましたが、川の水を飲んで喉の渴きが潤された時もありました。炭酸飲料で喉が潤された時もありました。

しかし、井戸でイエス様と出会った女性のように、魂の飢え渴きは、「生ける水」であられるイエス様でしか潤すことは出来ない、ということを、私は学びました。私たちの魂を本当の意味で潤し、私たちにまことの永遠のいのちを与えて下さるお方は、イエス様なのです。

讃美歌 217

祈り 「鹿が谷川の流れを慕いあえぐように、神よ。私のたましいはあなたを慕いあえぎます」(詩篇 42:1)。「生ける水」であられるイエス様によって、私の魂の渴きを潤してください。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ベン・マレネス  
テキサス州アマリロ

7月21日 (金)

## 全てをご存知の神

聖書朗読 ヨハネ 4:39~42

造られたもので、神の前で隠れおおせるものは何一つなく、神の目には、すべてが裸であり、さらけ出されています。私たちはこの神に対して弁明をするのです。

ヘブル 4:13

人は誰でも、「他の人に話したくない、或いは知られたくないような何か(例:過去の出来事、等)」を心の中に持っているものです。家族だけの秘密、という場合もあります。ですが、私たちが何を秘密にしようとも、神様は私たちのすべてをご存知です。(井戸で主イエスと出会った)サマリヤ人の女性の場合も、同様です。この女性がイエス様と出会った際、イエス様は、この女性のこれまでの歩みについて、すべてをご存知でした。すべてをご存知である主との出会いは、この女性にとって衝撃的な出来事だったと言えましょう。イエス様は、このサマリヤの女性の全てをご存知だったのですから。

神様は、私たち一人一人の全てをご存知です。私たちの周りの人々が知らないことでも、神様はご存知なのです。「神様に知って頂きたい」と私たちが思うようなことも、もちろん神様はご存知です。このように「神様が全てを知っておられる」となると、私たちは少し怖く感じるかもしれませんが、怖がる必要はありません。イエス様がサマリヤの女性の全てを知りつつも、この女性を慈しんでくださったように、主は私たちの全てを知りつつも、私たちを「神の子供」としていつも愛して下さいます。そして神様は、何らかの秘密(何らかの過去の失敗、或いは心の傷など)を抱えた私たちを、良い方向へと導いて下さるのです。神のひとり子であるイエス様を私たちのために犠牲にして下さったことが、「神様から私たちのへ愛」の証拠です。これ以上素晴らしい愛はありません。

讃美歌 II編167

祈り 神様、あなたの恵みを感謝いたします。私たちは、あなたの大いなる恵みを受けるに値しない者です。それなのに、あなたの恵みが私たちに豊かに注がれていることに感謝いたします。あなたの恵みに、私たちが少しでも応答することが出来ますよう、助け導いてください。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

チャド・エゼル  
テネシー州ミラノ

7月22日(土)

## 良くなりたいか

聖書朗読 ヨハネ 5:1~7

イエスは彼が伏せっているのを見、それがもう長い間のことなのを知って、彼に言われた。「良くなりたいか。」 ヨハネ 5:6

イエス様はその宣教活動を通じて、しばしば社会で弱い立場に置かれている人々に対して慈しみを示されました。本日の箇所では、38年もの間病気で苦しんでいた男性へと、イエス様は目を向けられました。彼を癒す前に、イエス様は「良くなりたいか」と尋ねられました。この時の様子を、少し想像してみてください。約40年もの間、病気で苦しみ続けてきたこの男性は、(体が良くなる)希望を失いかけていたことでしょうか。そんな彼にとって、「良くなりたいか」というイエス様の問いかけは、彼に新たな希望の光を与えたのではないのでしょうか。イエス様は、慈しみ深くこの男性に問いかけられたのです。そして、この男性の「あきらめの気持ち」は、(主イエスと出会って)「希望」へと変えられたのです。主イエスの、愛が込められた「良くなりたいか」という問いかけは、この男性の心を明るく照らす光をもたらしたのです。

本日の箇所の、イエス様がなされた問いかけを思う時、私は考えさせられます——「私は、出会う人々に対して、どのような態度でいるべきなのだろうか」と、考えさせられるのです。もちろん、私は(イエス様のように)病気を癒すことは出来ませんが、人の魂を癒すことが出来るイエス様を人々に紹介する(指し示す)ことは出来ます。イエス様による救い(福音)は、全ての人のために開かれています。誰もが、イエス様が与えて下さる救いに与ることができるのです。私たちは誰でも、イエス様によって救われ、神の子どもとなる事が出来るのです。そして聖霊なる神様が、私たちの内に宿って下さるのです。何と素晴らしい恵みでしょうか。私たちは、与えられているこの恵みに、十分与ろうではありませんか。

讃美歌 121

祈り 神様、あなたから頂いている素晴らしい恵み・福音を、日々の生活の中で出会う人々と分かち合う勇気をお与えください。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

シャロン・フォスター  
テネシー州マキューエン

7月23日(日)

## 最終目的地

聖書朗読 ヨハネ 6:16~21

それで彼らは、イエスを喜んで舟に迎えた。舟はほどなく目的地の地に着いた。

ヨハネ 6:21

「まだ着かないの？」この台詞を何度、車の後部座席に座っている子供から聞いたのでしょうか？ 長旅は疲れます。何キロも延々と同じ景色が続く場合もあるでしょう。飽きてしまって、すぐに口喧嘩が始まる時もあるでしょう。自分が子供だった頃を思い出しますと、丘を駆け抜ける田舎道で車酔いしたことがありました。その時は、「早く到着して！」と必死に願ったものでした。

本日の箇所でイエス様は、弟子たちと一旦分かれて、お一人で時間を過ごされていました。一方、弟子たちは、舟に乗りガラリヤ湖畔を出発していました。そして嵐が来て、舟は大揺れとなりました。快適な旅とは全く言えなかったことでしょうか。そこに、突然イエス様が水の上を歩き、弟子たちの許に来られ、弟子たちの舟に乗り込まれたのです。そして「舟はほどなく目的地の地に着いた」のでした。

人生は旅のようなものです。人生という旅路の途上、私たちは様々なことに悩まされます。自動車での旅の際に後部座席の子供が(疲れて)「まだ着かないの？」と言うように、私たちも、人生という旅路において、霊的な疲れを覚えることがあると思います。そんな時、私たちが目を向けるべきお方は、イエス様です。イエス様が弟子たちの舟のそばにおられたように、私たちのすぐそばにもいて下さるのです。そして、弟子たちの舟に乗りこまれたように、主イエスは、私たちの人生の旅路をも共に歩んでくださるのです。そして、弟子たちの舟がほどなくして目的地の地に着いたように、私たちも人生の目的地へと安全に導かれていくのです。

讃美歌 519

祈り 神様、私たちの人生の旅路が困難な場面と直面する際、あなたがいつも共にいて下さることを思い起こすことが出来ますよう、お導き下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

マデライン・ピーターソン  
ネブラスカ州ヘースティングズ